

令和6年度ネットリサーチ「救急医療」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 茨城県救急電話相談（#7119／#8000）の認知度について、「#7119と#8000のどちらも知っている（または聞いたことがある）」（14.8%）、「#7119を知っている（または聞いたことがある）」（17.1%）、「#8000を知っている（または聞いたことがある）」（7.2%）を合わせた【知っている】は39.1%となっている。
- 茨城県救急電話相談の利用希望については、「ぜひ積極的に利用したい」（10.3%）、「時と場合によっては利用してみたい」（70.4%）を合わせた【利用したい】が80.7%となっている。
- AEDの使用について、「実際にAEDを使うことができる」と回答した方は、34.2%となっている。

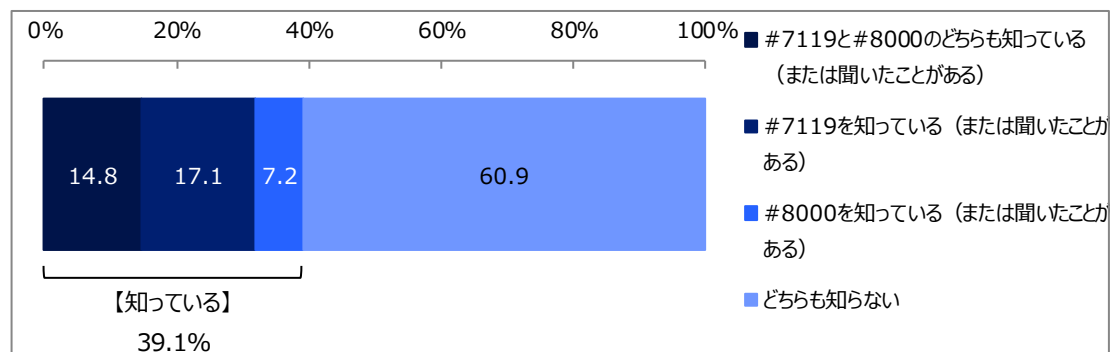
■調査結果の概要

1 茨城県救急電話相談（#7119／#8000）の認知度

- ◇ 「#7119と#8000のどちらも知っている（または聞いたことがある）」（14.8%）、「#7119を知っている（または聞いたことがある）」（17.1%）、「#8000を知っている（または聞いたことがある）」（7.2%）を合わせた【知っている】は39.1%となっている。

Q1.あなたは、「救急受診できる病院・診療所」や「今すぐに受診すべきか救急車を呼ぶべきか」について聞くことができる「茨城県救急電話相談（#7119／#8000）」という電話相談窓口があることを知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
#7119と#8000のどちらも知っている（または聞いたことがある）	14.8	148
#7119を知っている（または聞いたことがある）	17.1	171
#8000を知っている（または聞いたことがある）	7.2	72
どちらも知らない	60.9	609



(参考)

「茨城県おとな救急電話相談#7119」「茨城県子ども救急電話相談#8000」は、急な病気やケガで救急車を呼ぶべきか、すぐに医療機関を受診した方が良いのかといった判断に迷った際に、医師や看護師等の専門家から電話でアドバイスを受けることができます（24時間365日）。

茨城県救急電話相談について詳しくは、以下のURLからご覧ください。

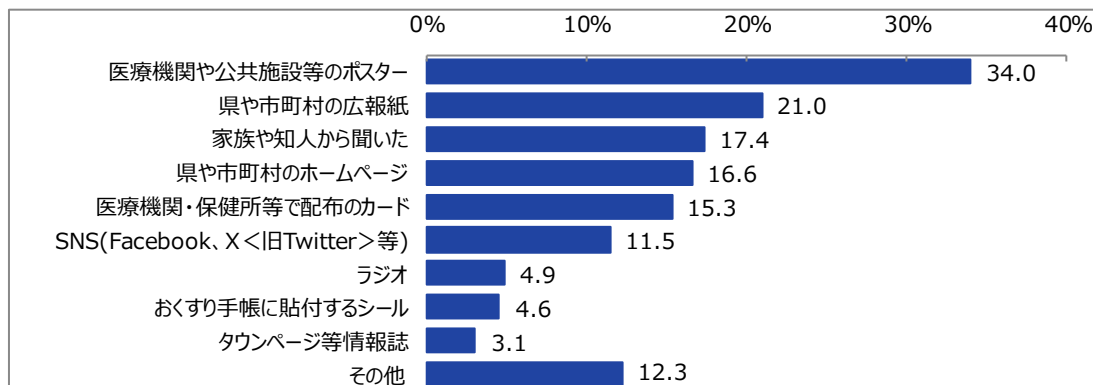
茨城県 HP：<https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/kenmin/life/hoken/isei/01/isei-001.html>

2 茨城県救急電話相談の認知経路

◇ 「医療機関や公共施設等のポスター」が34.0%で最も高く、「県や市町村の広報紙」が21.0%と続く。

(Q1で「#7119と#8000のどちらも知っている(または聞いたことがある)」「#7119を知っている(または聞いたことがある)」「#8000を知っている(または聞いたことがある)」を選択された方へ)
Q2.あなたは、「茨城県救急電話相談」を何で知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	391
医療機関や公共施設等のポスター	34.0	133
県や市町村の広報紙	21.0	82
家族や知人から聞いた	17.4	68
県や市町村のホームページ	16.6	65
医療機関・保健所等で配布のカード	15.3	60
SNS(Facebook、X<旧Twitter>等)	11.5	45
ラジオ	4.9	19
おくすり手帳に貼付するシール	4.6	18
タウンページ等情報誌	3.1	12
その他	12.3	48



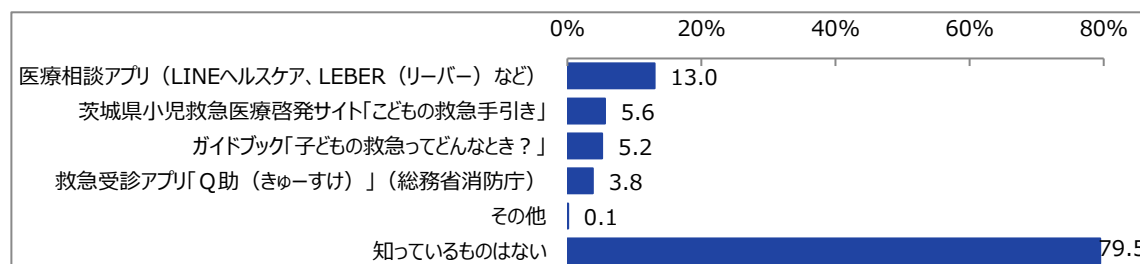
3 救急に関するアプリやガイドブック等の認知度

◇ 「医療相談アプリ (LINEヘルスケア、LEBER (リーバー) など)」が13.0%で最も高く、「茨城県小児救急医療啓発サイト『こどもの救急手引き』」が5.6%と続く。

◇ 一方で、「知っているものはない」と回答した方は79.5%であった。

Q3.救急に関するアプリやガイドブックについて、この中から、あなたが知っているものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
医療相談アプリ (LINEヘルスケア、LEBER (リーバー) など)	13.0	130
茨城県小児救急医療啓発サイト「こどもの救急手引き」	5.6	56
ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」	5.2	52
救急受診アプリ「Q助 (きゅーすけ)」(総務省消防庁)	3.8	38
その他	0.1	1
知っているものはない	79.5	795



(参考)

○ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」については、以下のURLからご覧ください。

ガイドブック：<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryoy/iryoy/isei/div/system/child/documents/panfu.pdf>

○茨城県小児救急医療啓発サイト「こどもの救急手引き」については、以下のURLからご覧ください。

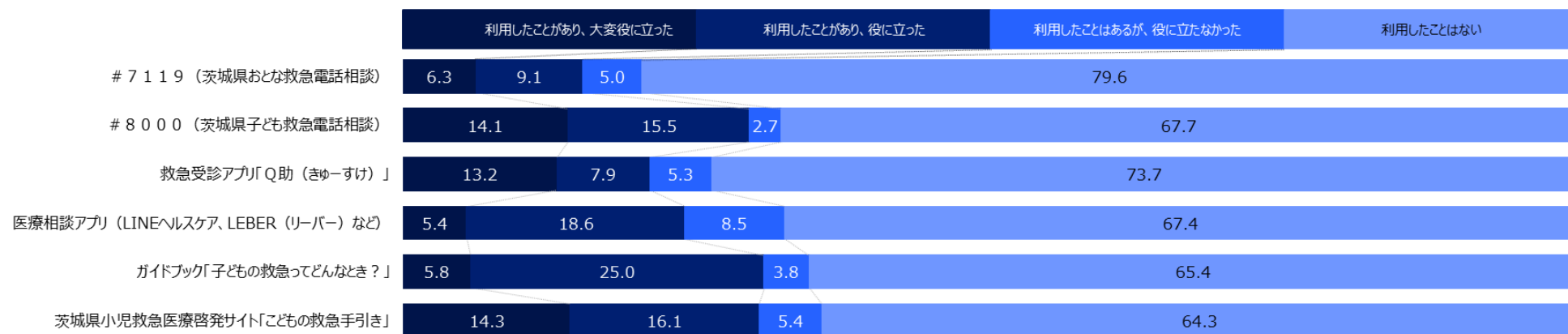
「こどもの救急手引き」：<https://www.pedqq.pref.ibaraki.jp/>

4 救急車を呼ぶかどうかの相談窓口等の利用状況

- ◇ 「#7119（茨城県おとな救急電話相談）」については、「利用したことがあり、大変役に立った」（6.3%）、「利用したことがあり、役に立った」（9.1%）、「利用したことはあるが、役に立たなかった」（5.0%）などとなっている。
- ◇ 「#8000（茨城県子ども救急電話相談）」については、「利用したことがあり、大変役に立った」（14.1%）、「利用したことがあり、役に立った」（15.5%）、「利用したことはあるが、役に立たなかった」（2.7%）などとなっている。
- ◇ 「救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」については、「利用したことがあり、大変役に立った」（13.2%）、「利用したことがあり、役に立った」（7.9%）、「利用したことはあるが、役に立たなかった」（5.3%）などとなっている。

（Q1で「どちらも知らない」以外、及びQ3で「その他」「知っているものはない」以外を選択した方へ）

Q4.あなたは、専門家に相談できる電話相談窓口やガイドブック等について、利用したことがありますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



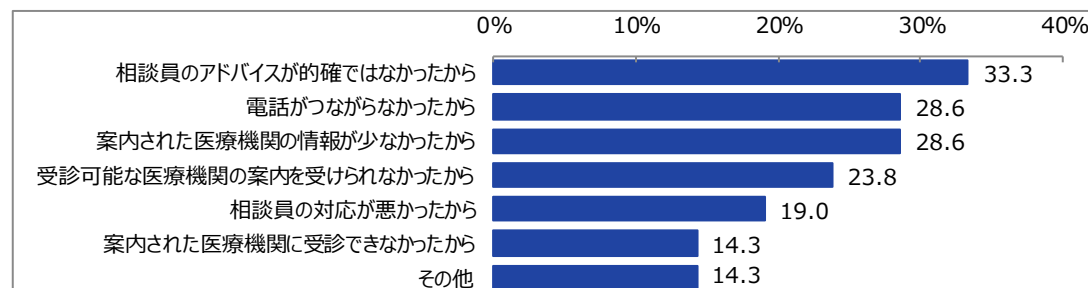
	%	利用したことがあり、 大変役に立った	利用したことがあり、 役に立った	利用したことはあるが、 役に立たなかった	利用したことはない
#7119（茨城県おとな救急電話相談）	100.0	6.3	9.1	5.0	79.6
#8000（茨城県子ども救急電話相談）	100.0	14.1	15.5	2.7	67.7
救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」	100.0	13.2	7.9	5.3	73.7
医療相談アプリ（LINEヘルスケア、LEBER（リーバー）など）	100.0	5.4	18.6	8.5	67.4
ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」	100.0	5.8	25.0	3.8	65.4
茨城県小児救急医療啓発サイト「こどもの救急手引き」	100.0	14.3	16.1	5.4	64.3

5 茨城県救急電話相談が役に立たなかった理由

◇ 「相談員のアドバイスが的確ではなかったから」が33.3%で最も高く、「電話がつながらなかったから」、「案内された医療機関の情報が少なかったから」がそれぞれ28.6%と続く。

(Q4で「#7119(茨城県おとな救急電話相談)」又は「#8000(茨城県子ども救急電話相談)」を「利用したことはあるが、役に立たなかった」と回答した方へ)
Q5.「茨城県救急電話相談」が役に立たなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	21
相談員のアドバイスが的確ではなかったから	33.3	7
電話がつながらなかったから	28.6	6
案内された医療機関の情報が少なかったから	28.6	6
受診可能な医療機関の案内を受けられなかったから	23.8	5
相談員の対応が悪かったから	19.0	4
案内された医療機関に受診できなかったから	14.3	3
その他	14.3	3

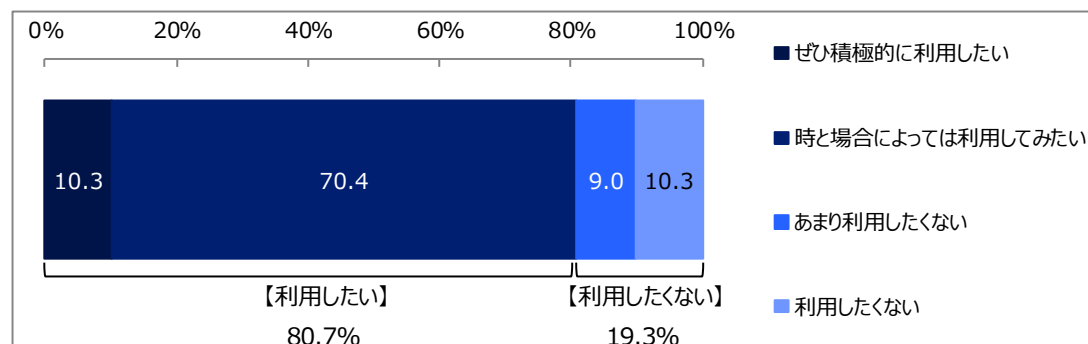


6 茨城県救急電話相談の利用希望

◇ 「ぜひ積極的に利用したい」(10.3%)、「時と場合によっては利用してみたい」(70.4%)を合わせた【利用したい】は80.7%となっている。

Q6.あなたは、「茨城県救急電話相談」を利用してみたいと思いますか。また、利用したことがある方は、次回も利用してみたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
ぜひ積極的に利用したい	10.3	103
時と場合によっては利用してみたい	70.4	704
あまり利用したくない	9.0	90
利用したくない	10.3	103

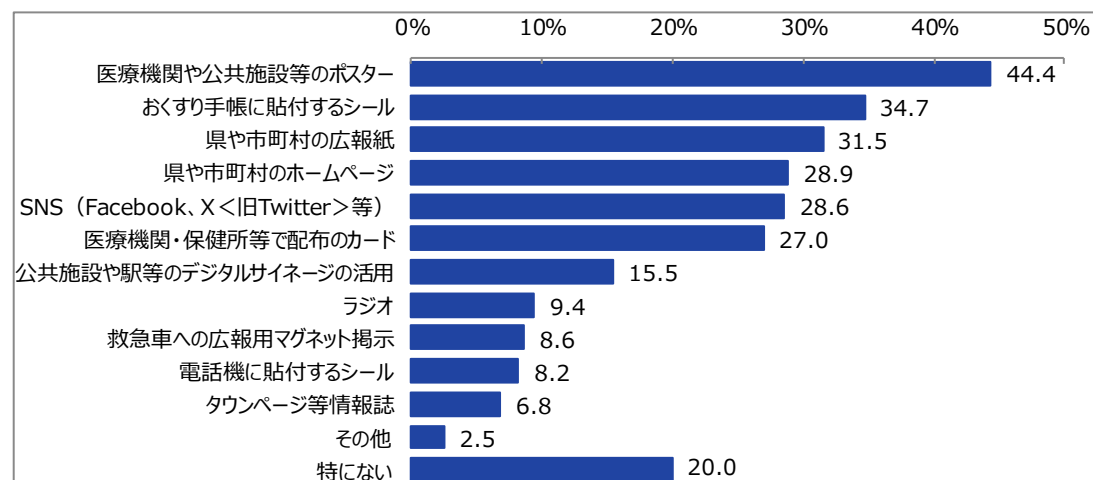


7 効果的だと思う広報手段

◇ 「医療機関や公共施設等のポスター」が44.4%で最も高く、「おくすり手帳に貼付するシール」が34.7%と続く。

Q7.あなたは、「茨城県救急電話相談」の認知度向上に向け、どのような広報手段が効果的だと思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
医療機関や公共施設等のポスター	44.4	444
おくすり手帳に貼付するシール	34.7	347
県や市町村の広報紙	31.5	315
県や市町村のホームページ	28.9	289
SNS（Facebook、X<旧Twitter>等）	28.6	286
医療機関・保健所等で配布のカード	27.0	270
公共施設や駅等のデジタルサイネージの活用	15.5	155
ラジオ	9.4	94
救急車への広報用マグネット掲示	8.6	86
電話機に貼付するシール	8.2	82
タウンページ等情報誌	6.8	68
その他	2.5	25
特になし	20.0	200

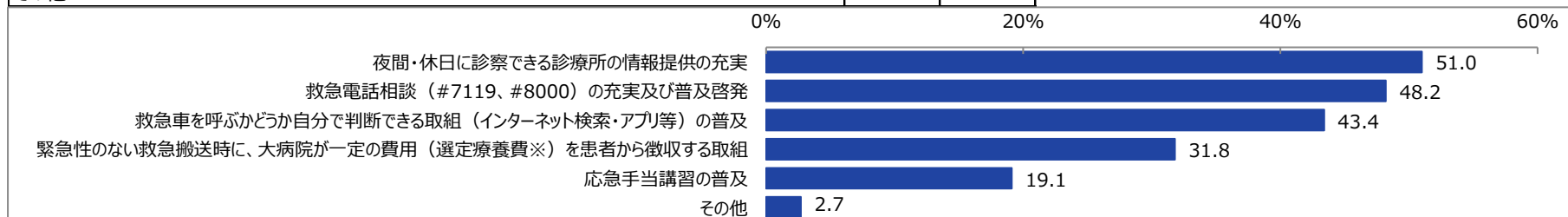


8 救急車の適正利用に向けた仕組み

◇ 「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」が51.0%で最も高く、「救急電話相談（#7119、#8000）の充実及び普及啓発」が48.2%と続く。

Q8.あなたは、救急車の適正利用（不必要な要請を避ける等）に向けてどのような仕組みが必要であると考えますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実	51.0	510
救急電話相談（#7119、#8000）の充実及び普及啓発	48.2	482
救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取組（インターネット検索・アプリ等）の普及	43.4	434
緊急性のない救急搬送時に、大病院が一定の費用（選定療養費※）を患者から徴収する取組	31.8	318
応急手当講習の普及	19.1	191
その他	2.7	27



(※) 選定療養費とは

かかりつけ医等からの紹介状を持たずに大病院を受診する場合に、病院が患者から徴収する費用のこと。

ただし現在、救急車で搬送された患者については、例外的に「選定療養費」徴収の対象外となっている。

(参考)

救急車は限られた資源です。本当に救急車を必要としている方のためにも、救急車の適正な利用にご協力をお願いします。救急車の適正利用については、以下の URL からご覧ください。

茨城県 HP : https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shobo/shobo/info/kyukyusha_riyo.html

ここからは、心臓が止まった人に電気ショックを加えて心臓を動かす「AED（自動体外式除細動器）」という機器についてお尋ねします。

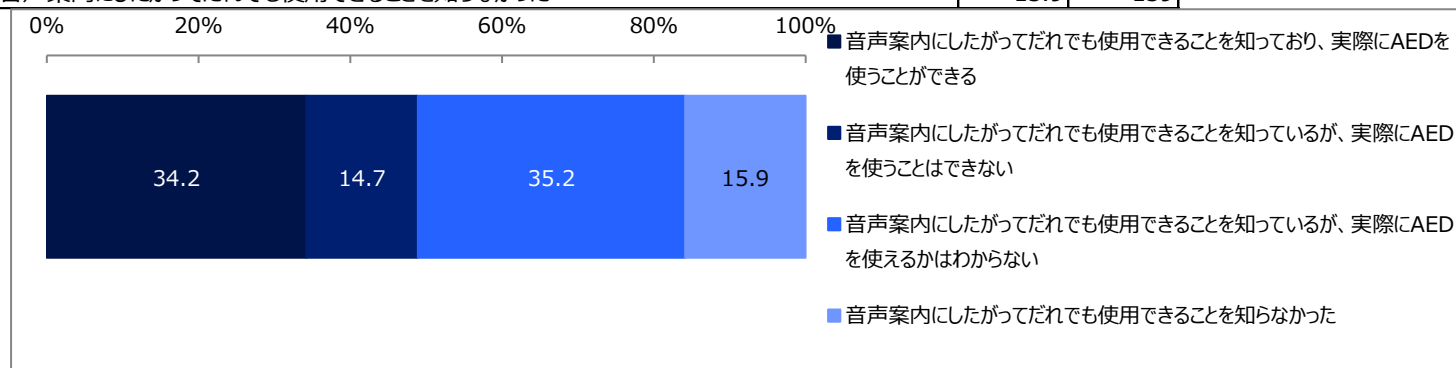


9 AED の使用

◇ 「音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っており、実際にAEDを使うことができる」が34.2%などとなっている。

Q9.あなたは、AEDが、音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っていますか。また、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、あなたはその人にAEDを使うことができますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っており、実際にAEDを使うことができる	34.2	342
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使うことはできない	14.7	147
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使えるかはわからない	35.2	352
音声案内にしたがってだれでも使用できることを知らなかった	15.9	159



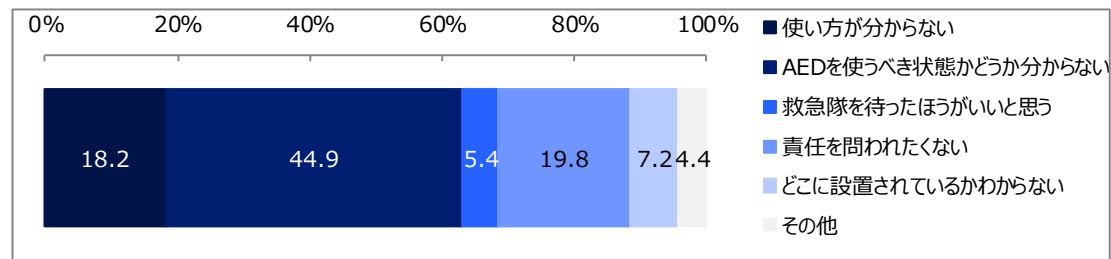
10 AED を使えない、または使えるかどうか分からない理由

◇ 「AED を使うべき状態かどうか分からない」が44.9%で最も高く、「責任を問われたくない」が19.8%と続く。

(Q9で「音声案内にしたがってだけでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使うことはできない」「音声案内にしたがってだけでも使用できることを知っているが、実際にAEDを使えるかはわからない」を選択された方へ)

Q10.AEDを使えない、またはAEDが使えるかどうか分からないと思う一番の理由は何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	499
使い方が分からない	18.2	91
AEDを使うべき状態かどうか分からない	44.9	224
救急隊を待ったほうが良いと思う	5.4	27
責任を問われたくない	19.8	99
どこに設置されているかわからない	7.2	36
その他	4.4	22



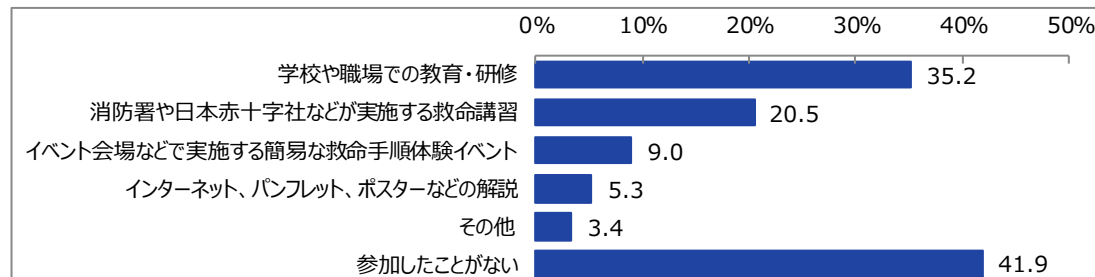
11 心肺蘇生の講習会等への参加経験

◇ 「学校や職場での教育・研修」が35.2%で最も高く、「消防署や日本赤十字社などが実施する救命講習」が20.5%と続く。

◇ 一方で「参加したことがない」と回答した方は、41.9%であった。

Q11.あなたは、これまでAEDの使い方を含む心肺蘇生の講習会などに参加したことがありますか。参加したり、見たりしたことがあるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
学校や職場での教育・研修	35.2	352
消防署や日本赤十字社などが実施する救命講習	20.5	205
イベント会場などで実施する簡易な救命手順体験イベント	9.0	90
インターネット、パンフレット、ポスターなどの解説	5.3	53
その他	3.4	34
参加したことがない	41.9	419

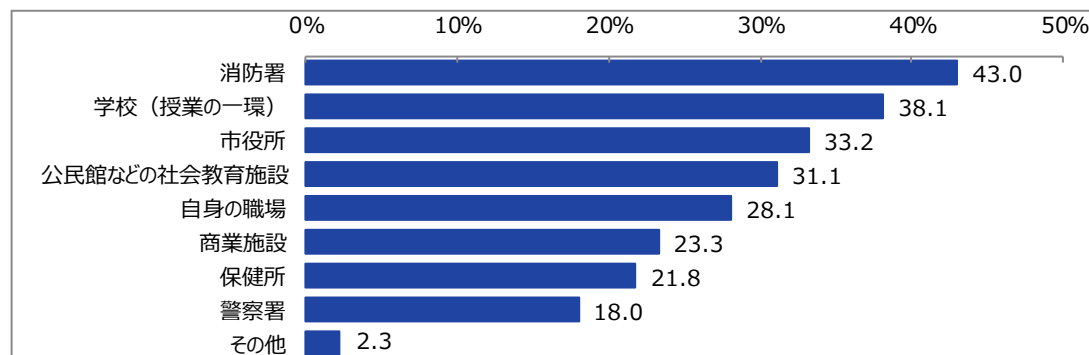


12 応急手当講習の受講

◇ 「消防署」が43.0%で最も高く、「学校（授業の一環）」が38.1%と続く。

Q12.あなたは、AEDの使い方を含む応急手当の講習をどこで受講できると良いと思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
消防署	43.0	430
学校（授業の一環）	38.1	381
市役所	33.2	332
公民館などの社会教育施設	31.1	311
自身の職場	28.1	281
商業施設	23.3	233
保健所	21.8	218
警察署	18.0	180
その他	2.3	23



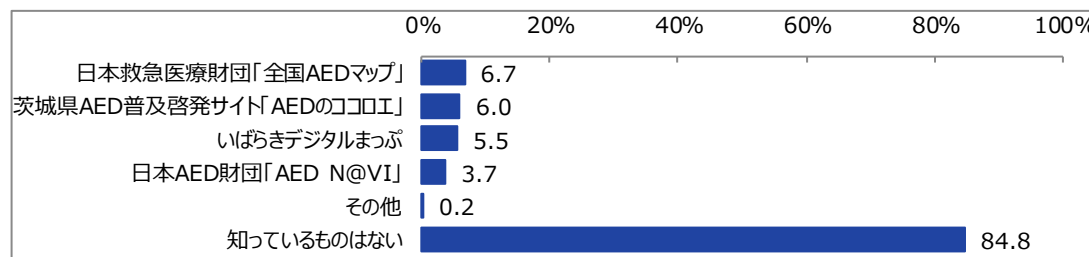
13 AED 設置施設を検索できるサイトの認知度

◇ 「日本救急医療財団『全国 AED マップ』」が6.7%で最も高く、「茨城県 AED 普及啓発サイト『AED のココロエ』」が6.0%と続く。

◇ 一方で「知っているものはない」と回答した方は、84.8%であった。

Q13.AEDの設置施設を検索できるインターネットのサイトがあります。次の中からあなたが知っているものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
日本救急医療財団「全国AEDマップ」	6.7	67
茨城県AED普及啓発サイト「AEDのココロエ」	6.0	60
いばらきデジタルまっぷ	5.5	55
日本AED財団「AED N@VI」	3.7	37
その他	0.2	2
知っているものはない	84.8	848



（参考）

各 AED 設置施設検索サイトについては、以下の URL からご覧ください。

- ・ 茨城県 AED 普及啓発サイト「AED のココロエ」：<https://www.aed.pref.ibaraki.jp/>
- ・ いばらきデジタルまっぷ：<https://www2.wagmap.jp/ibaraki/Portal>
- ・ 日本救急医療財団「全国 AED マップ」：<https://www.qqzaidanmap.jp/>
- ・ 日本 AED 財団「AED N@VI」：<https://aed-navi.jp/>

■調査の目的

県民に救急車の適正利用を促すために県で実施している「茨城県おとな救急電話相談（＃7119）」、「茨城県子ども救急電話相談（＃8000）」等について、県民の認知度や活用状況等を調査し、今後の普及啓発活動や事業改善の参考とする。

また、県民がAEDの使い方を含む心肺蘇生の講習を受講しやすい体制づくりを推進するため、AEDについての理解、意識を調査する。

■実施概要

・実施期間：令和6年9月13日～9月23日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和6年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル
回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		110	246	93	362	189	1,000
性別	男性	57	126	50	187	99	518
	女性	53	120	43	175	90	482
年代別	18～29歳	17	41	16	70	33	177
	30歳代	16	42	16	61	30	165
	40歳代	21	54	20	81	41	217
	50歳代	28	59	21	83	44	235
	60歳代	28	50	20	67	41	206

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
4. 男性18～29歳の回収件数は、「県北」「県西」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性30歳代でそれぞれ4サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。